

SS 特講 I・II 北海道大学臼尻水産実験所巡検

7月30日(土)・31日(日)の二日間、SS 特講 I・IIの活動の一環として、北海道大学臼尻水産実験所の巡検を行いました。昨年度に引き続き開催された本巡検では、北海道大学臼尻水産実験所所長である宗原弘幸教授からの講義や海洋実習としてシュノーケリングなどを行いました。

北海道を取り巻く海洋環境についての講義

午前中は宗原教授より、北海道を含む北方海洋生物圏について講話いただきました。北海道近海にどのような魚が生息しているのか、またその魚たちはいつ・どこから来たのか、時間的・空間的視点を踏まえてわかりやすくお話ししていただきました。海洋環境の変化と水産漁業の関わりについてもご説明いただき、函館で暮らす生徒たちにとって考えさせられることの多い講義となりました。



シュノーケリングと海中釣行

午後からはウェットスーツに身を包み、海でのシュノーケリングに臨みました。プールにてシュノーケリングの基本的な使用法を確認した後、海に入って海中観察を行いました。午前中の講義で聞いた魚が生きて泳ぐ姿を目の当たりにし、海の豊かさを改めて実感することができました。後半は海中での釣りに挑戦し、疑似餌とイカ餌でエゾメバルを釣り上げました。二日間目は天候不順もあり思うように実習を行うことができませんでした。



が、初めてウェットスーツを着て海に入る生徒からは浮力に驚きながらも楽しむ様子が見られました。

エゾメバルの体長・体重測定と統計処理

海中釣行の後は釣り上げたエゾメバルの体長・体重測定を行いました。大学生のサポートを受けつつ生物学分野における測定のノウハウを学び、データを収集しました。収集したデータをもとに、疑似餌とイカ餌の互いによって釣果にどのような差があるのかを統計処理を用いて分析しました。以前 SS 特講 Iの活動の中で学習した t 検定を行い、標本間に有意差があるかどうかを生徒自身が検討しました。生徒からは「今回の実習で t 検定の使いどころがわかった」という声も聞かれました。仮説検定の手法やサンプリングの方法に問題がないか考えることで、統計処理についても理解が深まった様子でした。



臼尻水産実験所の施設見学

巡検の最後には、臼尻水産実験所のラボや研究施設を見学させていただき、実際の研究現場の雰囲気を感じることができました。



今回の巡検では、海洋環境や統計処理についてこれまで学んできたことを活かし、より学びを深めることができました。今後も SS 特講では巡検等を通じ、生徒が探究活動を行っていく予定です。